

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
10 ～ 11	10 (書く 10)	二 様子をよく見て、くわしく書こう	■見つけた物の様子をよく見て、様子が伝わるように詳しく書く。			
		おもしろいもの、見つけたよ	△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表◎B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ⇒思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒◎思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆生活科：題材は生活科で扱ったものから選ぶこともできる。	1 2 3・4 5～7 8 9・10	○「学習の進め方」を読んで、学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 見つけたものから、書くことを決める。 組み立てよう 2. 見つけたものの様子をメモに書き、まとまりごとに並べる。 書こう(重点) 3. 文章を書く。 読み返そう 4. 書いた文章を、声に出して読み返す。 伝え合おう(重点) 5. 友達と文章を読み合う。 ○学習を振り返る。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(【知識及び技能】(1)オ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。(【思考力、判断力、表現力等】Bオ) 【態度】進んで文章に対する感想を伝え合い、学習の見通しをもって記録する文章を書こうとしている。
	2	しを読もう てんとうむし 木	□イメージの自由な広がりをおとして、詩を楽しむ。 △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(1)カ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	1 2	1. 『てんとうむし』を読み、この詩のおもしろいところ、わからないところを話し合う。 2. 「ちいさくてもぞうとおなじいのちをいっつもっている」という一節をどう思うか、話し合う。 3. 『木』を音読して、どのような木か、大きさや形などを想像し合う。 4. 詩を視写し、絵を描いたり思ったことを書いて、考えたことを発表し合う。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(【知識及び技能】(1)オ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(【思考力、判断力、表現力等】Cエ) 【態度】進んで言葉の響きなどに気を付けて、学習の見通しをもって感想を発表しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
12	2	漢字の広場 ④ 漢字のつかい方と読み方	△漢字の使い方や読み方、意味などを考えて漢字を正しく使う。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ	1 2	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「生」という漢字のいろいろな使い方を考える。 2. P56上段の設問をもとに「生」の読み方について、話し合う。 3. 「後」「行」「通」の読み方と、それぞれの意味の違いを考え、話し合う。 4. 送り仮名によって読み方が変わる漢字をもとに、「おくりがな」の役割を考える。 5. P57下段の設問をもとに、読み方によって送り仮名が変わることを理解する。 6. 複数の読み方がある漢字を集めて、短文を作り、発表し合う。	◎【知識・技能】当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。 (【知識及び技能】(1)エ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって漢字を正しく使おうとしている。
12	2 (書く 2)	漢字の広場 ④ 一年生で学んだ漢字 ③	△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ	3・4	7. 絵の中の言葉の読み方を確認する。 8. 教科書の絵と言葉を参考に、絵に描かれている様子から想像できる短文を作り、語と語の続き方に注意して文を書く。 9. 主語と述語のつながりに気をつけて、絵の中の言葉を使って2文以上が続くように書き、発表し合う。 ○学習したことを振り返る。	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。 (【知識及び技能】(1)エ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 (【思考力、判断力、表現力等】Bウ) 【態度】積極的に前学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって文や文章を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
12	19 (書く 10)	五 わかりやすくせつめいする ための、くふうをたしかめ よう	□■説明の順序を正しく捉えながら読み、おも ちゃの作り方を説明する。			
12	12 (書く 3)	「しかけ絵本」を作ろう	□説明の順序に気をつけながら、「しかけ絵本」 の仕組みや作り方を書いた文章を読む。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験した ことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒ 知技(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の 順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判 表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内 容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫す ること。 ⇒思判表B(1)ウ □時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、 内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(1)ア □文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこ と。 ⇒◎思判表C(1)ウ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想 をもつこと。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有 すること。 ⇒思判表C(1)カ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察 したことを記録したりするなど、見聞きしたことを 書く活動。 ⇒思判表B(2)ア □事物の仕組みを説明した文章などを読み、分 かったことや考えたことを述べる活動。 ⇒思判 表C(2)ア ☆生活科・図工：順序に気をつけて作業の手順を 説明する文章を書く。	1 2・3 4・5 6・7 8・9 10・11 12	○学習の見直しをもつ。 確かめよう 1. 「しかけ絵本」の作り方を写真から確かめる。 (1) 用意する材料と道具は何か。 (2) どんな順序で作るのか。 考えよう 2. 「しかけ絵本」ができるまでにすることと気をつ けることを表にまとめる。 (1) 「じゅんじょ」「どうする」「気をつけるこ と」を表す言葉を見つける。 4 (2) 「しかけ絵本」を作る順序や作り方を文章から 確かめ、表にまとめる。 (3) 「用意するざいりょう」を読んで、書いてある 内容を読み取り、実際に用意して確かめる。 6 (4) 順序に気をつけて、写真や文章を照応しながら 「しかけ絵本」を作る ・動物の表情や、食べるものが何か、を想像する。 ・表紙、仕掛け、背表紙を作る。 8 深めよう 3. 本文は、「しかけ絵本」の作り方をわかりやすく 伝えるために、どのような工夫がされているか、考 えたことを話し合う。 (1) これまでの説明文との違いについて、気がつい たことをノートに書く。 (2) 友達どうして、気がついたことを交流する。 10 広げよう 4. 「しかけ絵本」のお話を考え、紹介する。 *どのような動物や生き物が登場するのか。 *どのような表情をするのか。 *仕掛けには、どのような動きがあるのか。 以上、3点を紹介の時に発表する。 12 ○学習を振り返る。	【知識・技能】言葉には、事物 の内容を表す働きや、経験した ことを伝える働きがあることに 気付いている。(〔知識及び技 能〕(1)ア) 【思考・判断・表現】「書くこ と」において、自分の思いや考 えが明確になるように、事柄の 順序に沿って簡単な構成を考え ている。(〔思考力、判断力、 表現力等〕Bイ) ◎【思考・判断・表現】「読む こと」において、時間的な順序 や事柄の順序などを考えなが ら、内容の大体を捉えている。 (〔思考力、判断力、表現力 等〕Cア) ◎【思考・判断・表現】「読む こと」において、文章の中の重 要な語や文を考えて選び出して いる。(〔思考力、判断力、表 現力等〕Cウ) 【態度】進んで時間的な順序や 事柄の順序などを考え、学習課 題に沿って「しかけ絵本」を作 ろうとしている。
12	7 (書く 7)	おもちゃのせつめい書を書こう	■おもちゃの作り方や遊び方の順序を考えて、説 明書を書く。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験した ことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒ 知技(1)ア △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関 係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア ■経験したことや想像したことなどから書くこと を見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりし て、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表 B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の 順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判 表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内 容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫す ること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違い を正したり、語と語や文と文との続き方を確かめ たりすること。 ⇒◎思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内 容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判 表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察 したことを記録したりするなど、見聞きしたことを 書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆生活科：題材は生活科で扱ったおもちゃから選 ぶこともできる。	1 2・3 4・5 6・7	○「学習の進め方」を読み、学習の見直しをもつ。 決めよう・集めよう 1. おもちゃの作り方や遊び方を思い出し、メモに 書く。 2 組み立てよう 2. 説明書の組み立てを考える。 4 書こう・読み返そう(重点) 3・4. 説明書を書き、読み返す。 6 伝え合おう 5. 友達と読み合う。 ○学習を振り返る。	◎【知識・技能】共通、相違、 事柄の順序など情報と情報との 関係について理解している。 (〔知識及び技能〕(2)ア) ◎【思考・判断・表現】「書く こと」において、語と語や文と 文との続き方に注意しながら、 内容のまとまりが分かるように 書き表し方を工夫している。 (〔思考力、判断力、表現力 等〕Bウ) ◎【思考・判断・表現】「書く こと」において、文章を読み返 す習慣を付けているとともに、 間違いを正したり、語と語や文 と文との続き方を確かめたりし ている。(〔思考力、判断力、 表現力等〕Bエ) 【態度】粘り強く語と語や文と 文との続き方に注意し、学習の 見直しをもって説明する文章を 書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
1	11 (話す聞く3)	六 場面や人物の様子をくわしく読もう	□様子を詳しく読んで、読み方を工夫して音読発表会を開く。			
		かさこじぞう	△身近なことを表す語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。⇒◎知技(1)ク △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。⇒知技(3)ア ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さを工夫すること。⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。⇒思判表A(1)エ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。⇒思判表C(1)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。⇒◎思判表C(1)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。⇒思判表C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。⇒◎思判表C(1)カ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア □読み聞かせを聞いたり物語などを読んでたりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳：C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。	1・2 3・4 5・6 7・8 10・11	○単元全体の学習に見通しをもつ。 確かめよう 1. 『かさこじぞう』の音読発表会を開くために、教材文を読んでいくことを確認する。 (1) 主な登場人物を確認する。 (2) 主なできごとと、何が変わったのかを確認する。 考えよう 2. 登場人物の気持ちを考えながら詳しく読む。 (1) じぞうさまは、なぜ、いろいろなものをじいさまとばあさまの家に持っていたのでしょうか。 (2) じいさまとばあさまは、どのような人物だと思うか。わかる場所を見つけて紹介し合う。 深めよう 3. いちばん好きな場面とその訳を紹介する。 広げよう 4. 音読発表会の準備をする。 ・グループで好きな場面を音読劇にする。どこを、どのように工夫して読むのか相談する。 5. 音読発表会をする。 ・音読発表会を行い、他のグループの発表のよいところをノートに書いて伝え合う。 ○学習を振り返る。	◎【知識・技能】語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(〔知識及び技能〕(1)ク) 【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さを工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) ◎【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ) 【態度】進んで場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、学習の見通しをもって音読発表会をしようとしている。
1	3	むかしのあそび	△日本に古くから伝承されている昔遊び(正月遊び)を知り、実際に遊ぶことを通してその魅力を知る。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。⇒知技(3)ア △長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。⇒◎知技(3)イ	1 2・3	1. 正月に見られる「門松」「初夢」「お年玉」「書初め」「鏡餅」などについての簡単な由来を知る。 2. 昔遊び(正月遊び)に見られる「羽根つき」「たこあげ」「福笑い」「こままわし」「かるたとり」をする理由を知り、実際に遊んでみる。	◎【知識・技能】長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。(〔知識及び技能〕(3)イ) 【態度】進んで長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付く、学習の見通しをもって楽しむようとしている。
1	4 (話す聞く4)	むかしのあそびをせつめいしよう	◇昔の遊びについて、遊び方を調べて説明する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。⇒◎知技(1)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基いて、話す事柄の順序を考えること。⇒◎思判表A(1)イ ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さを工夫すること。⇒思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。⇒思判表A(1)エ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。⇒思判表A(2)ア	1 2・3 4	○昔の遊びから一つ選んで、遊び方を調べて友達に説明するという学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 説明する遊びを決め、遊び方を調べる。 (1) 新しく知った昔の遊びから説明する遊びを選ぶ。 (2) 遊び方を調べる。 組み立てよう(重点) 2. 説明のメモを書き、話す練習をする。 (1) 同じ遊びを選んだ人どうして遊び方を確かめながら、説明のためのメモを書く。 (2) メモをもとに、遊び方について順序に気をつけて説明する練習をする。 話そう・聞こう 3. 遊び方を説明する。 ○学習を振り返る。	◎【知識・技能】姿勢や口形、発声や発音に注意して話している。(〔知識及び技能〕(1)イ) ◎【思考・判断・表現】「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基いて、話す事柄の順序を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aイ) 【態度】進んで相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、今までの学習を生かして昔の遊びの遊び方を説明しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
2	3	主語とじゅつ語	△文を読んで、主語と述語の対応を考え、正しく使うことができる。 △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。⇒◎知技(1)カ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア	1	○冒頭の会話文をとおして、文作りにおいて主語と述語の対応が重要だということを知る。 1. 省略されている主語を考えることをとおして、主語を明示することの重要性に気づく。	◎【知識・技能】文の中における主語と述語との関係に気付いている。(〔知識及び技能〕(1)カ) 【態度】積極的に文の中における主語と述語との関係に気付く、学習の見通しをもって文を読んだり書いたりしようとしている。
			2	2. 教科書を読みながら、①～③の例文の形を確認していく。		
			3	3. ①～③の例文と同じ形の文を作る。 ○学習したことを振り返る。		
2	2	漢字の広場 ⑤ 同じ読み方の漢字	△同じ読み方の漢字を集め、漢字を正しく使う。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. P102上段の設問について考える。 2. 同じ読み方をする漢字を集めて文を作り、友達と読み合い、それぞれの漢字の意味や使い方の違いについて話し合う。	◎【知識・技能】当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。(〔知識及び技能〕(1)エ) 【態度】積極的に当該学年までに配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって同じ読み方の漢字を正しく使おうとしている。
			2	3. P103の「か」「とう」「し」と読む漢字を集めて語句を作り、発表し合う。 4. 同じ読み方をする漢字を集めて問題を作り、解答し合う。 ○学習したことを振り返る。		

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
2	13 (書く 13)	七 じゅんじよに気をつけて 書こう	■したことや身のまわりのできごとの中から書く ことを見つけ、思い出して、順序を考えて書く。			
		こんなことができるようになったよ	△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)ウ △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。⇒知技(1)キ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。⇒思判表B(1)イ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。⇒◎思判表B(1)エ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。⇒◎思判表B(1)オ ■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	1 2 3～5 6～10 11～13	○「学習の進め方」を読んで、学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. できごとを思い出して、書くことを決める。 (1) これまでのできごとの中から心に強く残っていることを発表し合い、文章に書く題材について考える。 (2) 文章に書きたい題材の一つを選び、何を書くのかを詳しく思い出して、メモに書き出す。 組み立てよう 2. 文章の組み立てを考える。 書こう・読み返そう(重点) 3・4. メモの順序にそって、文章を書き、読み返す。 (1) 文章を書く。 (2) 書いた文章を読み返す。 伝え合おう(重点) 5. できあがった文章を読み合い、感想を伝え合う。 ○学習を振り返る。	◎【知識・技能】長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使っている。 (〔知識及び技能〕(1)ウ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章を読み返す習慣を付けているとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりしている。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ) 【態度】積極的に、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりし、学習の見通しをもって文章を書こうとしている。
2	3	音や様子をあらわす言葉	△擬声語や擬態語のはたらきなどを理解し、文の中で使うことができる。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。⇒◎知技(1)オ	1 2 3	○言葉には、音や様子を表すことができるものがあることを理解し、学習活動に対する見通しをもつ。 1. 「音をあらわす言葉」のはたらきや表記の仕方について理解する。 2. 「様子をあらわす言葉」のはたらきや表記の仕方について理解する。 3. 濁音の有無によって、「音や様子をあらわす言葉」から受ける感じが異なることを理解する。 4. 単純形と反復形によって、「音や様子をあらわす言葉」から受ける感じが異なることを理解する。 5. 音や様子を表す言葉を使って文を書く。 ○学習したことを振り返る。	◎【知識・技能】身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。 (〔知識及び技能〕(1)オ) 【態度】積極的に、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、学習の見通しをもって文の中で使おうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
2	2	漢字の広場 ⑥ 組み合わせでできている漢字	△同じ部分をもつ漢字を集め、漢字を正しく使う。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「明」という漢字の分け方を考える。 2. 漢字の中には、左右・上下・内外などに分けられるものがあることを確かめ、漢字の組み立て方には一定のきまりがあることを理解する。 3. 「心・田」などの漢字を組み合わせでできる漢字を考え、話し合う。 4. 「心・田」などと同じような問題を作り、解答し合う。	◎【知識・技能】当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。(【知識及び技能】(1)エ) 【態度】積極的に当該学年までに配当されている漢字を読み、学習の見通しをもって同じ部分をもつ漢字を正しく使おうとしている。
			2	5. 熟語を手がかりに、「言」の部分をもつ漢字を探し、発表する。 6. 「日」「土」「田」など、同じ部分(構成要素)をもつ漢字を集めて問題を作り、発表する。		
2 (書く 2)	2	漢字の広場 ⑥ 一年生で学んだ漢字 ④	△絵を見て想像したことをもとに、1年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ △文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。 ⇒思判表B(1)エ ■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ウ	3・4	7. 絵の中の言葉の読み方を確認する。 8. 教科書の絵と言葉を参考に、絵に描かれている様子から想像できる短文を作り、語と語の続き方に注意して文を書く。 9. 男の子と女の子の目に映ったものを、主語と述語のつながりに気をつけて、2文以上が続くように書き、発表し合う。 ○学習したことを振り返る。	◎【知識・技能】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(【知識及び技能】(1)エ) ◎【思考・判断・表現】「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) 【態度】積極的に前学年で配当されている漢字を書き、学習の見通しをもって文を書こうとしている。

